

きのこ道へのお導き

近藤 綾子

2007 年末に入会いたしました近藤と申します。私は広島県出身です。物心ついた頃は、今は少なくなった近所の野原や田圃にて、生き物や草花に親しんでいたことを思い出します。見たものはその時に、まだ見ぬものには色々と思いを馳せながら図鑑を片手に名前を覚えたものです。

きのこのことの出会いもあったはずなのですが、確信を持った出会いはずっと後のことです。それから多感な年頃に入ると、それまで抱いていた生き物への関心に引け目を感じるようになり、幼い日々のことは良き思い出として何とはなしに封印していたような気がします。

そんな私が大学では何故だかワンダーフォーゲル部に所属し、県内から国内まで色々な山に登り、自然の形容の魅力にはまってきました。封印していたといいながらあの原風景はしっかりと心の大事な場所に根ざしていたのでしょう。きのこの印象的な出会いは、その頃にありました。部の活動で、県西部の中国山地の山に登った時のことです。この年は、甚大な被害をもたらした台風 19 号から何年か後の、きのこ大豊作の年で、あちこちになぎ倒された樹齢ウン十年程のブナ、ミズナラ等の巨木、更には地面から様々なきのこが沢山生えていました。

私は思わず活動を忘れ、嬉々として（事もあろうに！）ビニール袋に大量に入れ込みましたが、案の定中でぐちょぐちょ…。その後「これ、何のきのこかね？」と仲間に尋ねてみましたが、同定出来る人はおらず、結局全



千葉県と広島きのこ同好会の会報を持つ私

部山に返してしまいました。しかし、きのこにも必ず名前があり食べられるものもあったはず…。その時の喜びと後悔は、楽しく苦い思い出となって強く残りました。

その 1 年後、偶然大学のキャンパスできのこを採集されていた、広島きのこ同好会会員の山手万知子先生との出会いがあり、初めてきのこの世界を知ることとなりました。関東には縁あって参りましたが、こちらでも何らかの形できのこの関わりをと思っていたところ、昨年行われたきのこアドバイザー研修にトライし、全国で活躍されている方々より触発を受け、講師として来られていた吹春先生をおたずねし、当会に入会させて頂きました。

アリの歩みでも一つずつ同定が出来るようになるのを目標としております。好奇心、探究心旺盛な皆様のお仲間に入れて頂けて嬉しい限りです。よろしくお願い致します。